

INGENIA シリーズ

IG1TR/IG2TR/IG3TR/IG4TR

2-Way アクティブスピーカー

取扱説明書



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落としたり、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に修理をご依頼ください。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年1回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。 火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20cm以上）離して置く隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。</p> <p>適切な器具を用いることなくスピーカーを吊り下げない スピーカーのハンドル部を使って吊り下げない 落下や故障の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検 / 修理は販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す ケーブルが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。</p>
 <p>指示</p>	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する また、接続は指定のケーブルを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器のシリーズは、約10 kg 以上 (10.6 kg ~20.8 kg) あり重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する (18 kg 以上の持ち運びは、1人で行わない)</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災・感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>注意</p>	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック 修理 センター (裏表紙に記載) にご相談ください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために.....	2
目次.....	4
はじめに.....	4
本製品の構成.....	4
本書の表記.....	4
商標および著作権に関して.....	4
設置上の注意.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
ユーザー登録について.....	5
アフターサービス.....	5
別売りアクセサリ.....	5
本機の概要.....	6
設置方法.....	6
三脚を使用して設置.....	6
フロア設置.....	6
吊り下げ設置.....	7
サブウーファー上に設置.....	7
サブウーファー上の支柱に設置.....	7
2台の本機を縦にスタックさせて使用する場合.....	7
各部の名称.....	8
フロント.....	8
リア.....	8
コントロールパネル.....	8
RDNet アダプター.....	8
各部の名称.....	9
電源パネル.....	9
接続方法 (基本的な接続方法).....	9
オーディオ入力の接続.....	9
適合ケーブル.....	9
電源および外部機器との接続.....	10
電源と電源リンクの接続.....	10
オーディオ信号の接続.....	10
RDNet の接続.....	11
設定メニュー (概要).....	11
メニュー構成.....	11
スタンバイ時 (ホーム画面).....	12
電源オン時 (メインメニュー).....	12
設定メニュー [スピーカー構成の設定].....	12
設定メニュー [設定の保存 / 呼出].....	13
設定メニュー [イコライザー設定].....	13
設定メニュー [マイク設定].....	13
設定メニュー [ステージアライメント / ディレイ設定].....	14
設定メニュー [指向性の設定].....	14
設定メニュー [サブウーファー設定].....	15
設定メニュー [オプション設定].....	15
AURORA NET コントロール.....	16
AURORA NET ソフトウェアのセットアップについて.....	16
各種ダウンロード.....	17
ソフトウェアの使用に関して.....	17
F/W アップデート.....	17
AURORA NET ソフトウェアのダウンロード.....	17
アクセサリのダウンロード先.....	18
リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....	18
トラブルシューティング.....	19
仕様.....	20
一般.....	20
寸法図 (IG1 TR).....	21
寸法図 (IG2 TR).....	22
寸法図 (IG3 TR).....	23
寸法図 (IG4 TR).....	24

はじめに

このたびは、dBTechnologies INGENIA シリーズをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、未永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書 (日本語) は、TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://tascam.jp/jp/>

- 最新版の取扱説明書 (英語) については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"INGENIA" の項目を選択し、上段 "Manuals" の列から対象となる PDF ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- スピーカー..... × 1
- Neutrik 社製 PowerCON TRUE1 電源 コード..... × 1
- 取扱説明書 (本書、保証書付き)..... × 1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン / 端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“_”で使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAM およびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Neutrik は、Neutrik AG の登録商標です。また、powerCON および TRUE1 は、Neutrik AG の商標です。
- Speakon は、Neutrik AG の登録商標です。
- Digipro は AEB INDUSTRIALE SRL の商標です。
- dBTechnologies は A.E.B Industriale SRL のそれぞれの国における商標または登録商標です。(※ 日本のディービーテクノロジー株式会社とは関係ありません。)
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏 -5度～50度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム(うなり)を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

ユーザー登録について

dBTechnologies の下記ウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://www.dbtechnologies.com/en/support/register/>

- 各種ソフトウェア、および F/W アップデーターをダウンロードする場合、ユーザー登録が必要になります。

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付(裏表紙に記載)されています。大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入日/ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
 - 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック 修理センター(裏表紙に記載)が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
 - 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック 修理センター(裏表紙に記載)にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
 - 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック 修理センター(裏表紙に記載)までご連絡ください。
 - 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番 (IG#T)*
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
 - お問い合わせ先については、裏表紙をご参照ください。
 - 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。
- * "#" は、本機の型名になります。
ご使用中の [IG1 TR/IG2 TR/IG3 TR/IG4 TR] いずれかの型名をお知らせください。

別売りアクセサリ

輸送や本体保護のために、下記の別売アクセサリがご使用になります。

- DRK-IG (フライバーアダプター)
- LP-IG (リンクブラケット)
- TA-IG (トラスアダプター)
- GSA-IG (グラウンドスタッキングアダプター)
- GSA-IGA (サブウーファーマウントアダプター)
- IG-WB (ウォールブラケット)
- SSB2 (ポールマウント三脚)
- DPTC-120L (IG1 TR/IG2 TR 電源LINK用)
(Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル 120cm)
- DPTC-160L (IG3 TR/IG4 TR 電源LINK用)
(Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル 160cm)

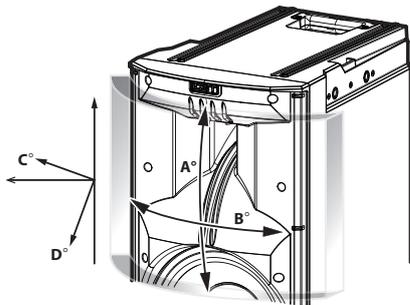
本機の概要

dBTechnologies INGENIA シリーズは、2個（または4個）の6.5インチ（または8～10インチ）ウーファーと1個の1インチ（または1.4インチ）コンプレッションドライバーを採用したホーン型ツイーターを備え、実用最大出力800 W～1800 W(RMS出力400 W～900 W)を実現する Digipro G3アンプを搭載した2-Way アクティブスピーカーです。

	ウーファー	コンプレッション ドライバー	最大出力
IG1 TR	6.5インチ×2	1インチ×1	800 W
IG2 TR	8インチ×2	1インチ×1	800 W
IG3 TR	10インチ×2	1.4インチ×1	1800 W
IG4 TR	6.5インチ×4	1.4インチ×1	1800 W

- 簡単なメニュー操作と高度な DSP 処理による、自在な設定が可能です。
- 入念に設計されたホーン部の形状は、垂直方向非対称の指向性(*1)を持ち、屋内外の様々な環境下でも狙った指向性を実現可能です。

同一機種2台を接続することで、2台同時にデジタル制御が可能となり、1台の仮想スピーカーとして指向性や各パラメーターの設定が可能です。



*1 : 各シリーズの指向性

	IG1 TR/IG2 TR	IG3 TR/IG4 TR
A°	80°	90°
B°	100°	110°
C°	15°	20°
D°	-65°	-70°

- INGENIAシリーズは、強化ポリプロピレンによる軽量かつ強固なキャビネットを採用し、物理的な強度で優れた音響特性を実現するだけでなく、サブウーファーの上に設置したり、同一機種2台を接続して吊り下げたりと、目的に合わせて様々な配置が可能です。

- 同一機種2台を接続した場合でも、ハンドルに内蔵された赤外線通信システム(*2)により、お互いのスピーカーを自動認識して、それぞれのスピーカーの設定を繰り返し入力する必要がありません。

また、設定した内容にパスワードをかけて保存することもできるなど、優れた操作性とセキュリティを備えています。

*2 : EPD 技術 -Element position Detection Technologie

- 電源部は電圧自動切替機能を備えたスイッチング電源により、冷却ファンを廃した静かなシステムを実現しています。複数の同一機種を接続する場合は、簡単かつ確実な接続が可能な Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブルシステム(別売りの専用ケーブル DPTC-120L または DPTC-160L)によって、デジチェーン式にマスター側からスレーブ側の INGENIA シリーズに電源を供給可能です。

設置方法

INGENIA シリーズは、以下の構成で使用することができます。必ず、各項目で説明する適切な別売りアクセサリを使って設置してください。

注意

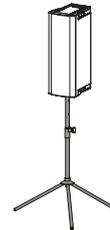
ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

メモ

- 同一機種2台を縦にスタックさせて設置する場合、常にハンドル部をチェックして、赤外線通信システムが邪魔されていない事を確認してください。またハンドルにカバーをかけたり、ホコリや汚れが付いたままにしないでください。
- 同一機種2台を縦にスタックさせて設置する場合、別売りの LP-IG リンクブラケットが必要です。

三脚を使用して設置

1台の INGENIA シリーズを別売りのポールマウント三脚(SSB2)に取り付けて設置できます。



注意

- 安定した設置のために、ポールマウント三脚(SSB2)の接地脚を伸ばした状態で設置してください。
- 安定した設置のために、スピーカー底部と床との高さは、下記の値を参考にしてください。

IG1 TR/IG2 TR : 150 cm 以下

IG3 TR/IG4 TR : 120 cm 以下

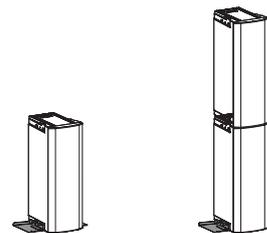
- ポールマウント三脚(SSB2)を使用する場合、安全上の理由で2台をスタックさせることはできません。必ず1台のみで使用してください。

フロア設置

別売りの GSA-IG グランドスタッキングアダプターを使って、INGENIA シリーズを床に設置できます。また、別売りの LP-IG リンクブラケットを使用して同一機種2台を床に設置できます。

メモ

同一機種2台を縦にスタックさせ、1台の仮想スピーカーとして使用することができます。(7ページ「2台の本機を縦にスタックさせて使用する場合」を参照)



注意

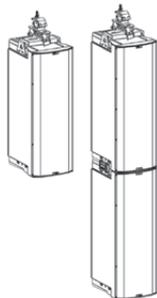
安定した設置のために、ネジまたは床材に適合したアンカーネジによる固定が必要です。

吊り下げ設置

別売りのDRK-IGファイバーアダプター、またはこのDRK-IGをリグなどに固定できる別売りのTA-IGトラスアダプターと組み合わせて、1台または2台のスピーカーを吊り下げて設置することができます。

メモ

同一機種2台を縦にスタックさせ、1台の仮想スピーカーとして使用することができます。(右ページの「2台の本機を縦にスタックさせて使用する場合」を参照)



メモ

- 吊り下げ設置の場合、シンプルな接続が可能な電源/信号リンクを使用することをお勧めします。

注意

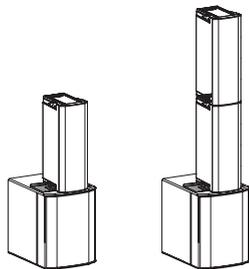
- 屋外に設置する場合は、振動や風で揺れないようにしっかりと固定してください。
- 絶対にINGENIAシリーズ本体のハンドルを吊り下げ用途に使わないでください。

サブウーファー上に設置

別売りのGSA-IG グランドスタッキングアダプターを使うことで、INGENIAシリーズをSUB Hシリーズのサブウーファー上に設置できます。また、別売りのLP-IGリンクブラケットを使用して同一機種2台をサブウーファー上に設置できます。これにより、全再生周波数帯域において大出力で、非常にコンパクトな床置きシステムが完成します。

メモ

同一機種2台を縦にスタックさせて、1台の仮想スピーカーとして使用することができます。(右ページの「2台の本機を縦にスタックさせて使用する場合」を参照)



注意

- 安定した設置のために、別売りのGSA-IGグランドスタッキングアダプターやLP-IGリンクブラケットが必要です。

サブウーファー上の支柱に設置

1台のINGENIAシリーズをSUB Hシリーズのサブウーファーに取り付けた伸縮式のポール(LF01: 35 mm 径)に取り付けることができます。



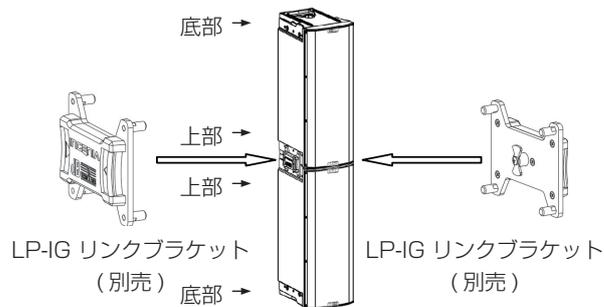
注意

- 安定した設置のために、メカニカルな固定器具あるいは、固定ストラップが必要です。
- 安定した設置のために、スピーカー底部と床との高さは、下記の値を参考にしてください。
IG1TR/IG2TR: 150 cm以下
IG3TR/IG4TR: 120 cm以下
- サブウーファー上に設置する場合、安全上の理由でINGENIAシリーズを2台をスタックさせることはできません。必ず1台のみで使用してください。

2台の本機を縦にスタックさせて使用する場合

別売りのLP-IGリンクブラケットを使用して、同一機種2台を縦にスタックさせて、1台の仮想スピーカーとして使用することができます。

正しくスタックされた場合、ハンドル部に内蔵された赤外線通信システムが自動的に縦にスタックされたことを認識し、本書の(12ページ「設定メニュー [スピーカー構成の設定]」を参照)のシステムチェックを実行するだけで設定が完了します。

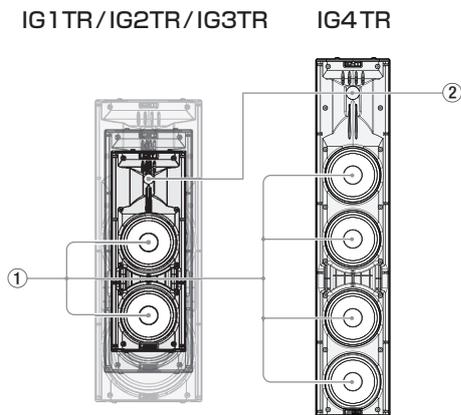


注意

- 正しく安全な接続のために、別売りのLP-IGリンクブラケット(2個1組)を必ず使用してください。
- 赤外線通信システムは、同一機種2台を縦にスタックした場合に有効です。
- 絶対にINGENIAシリーズ本体のハンドルをスピーカー吊り下げ用途に使わないでください。

各部の名称

フロント



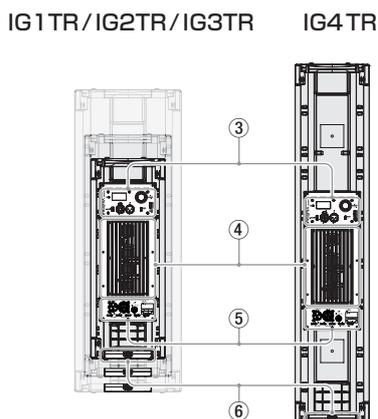
① ホーン

	コンプレッションドライバー
IG1 TR / IG2 TR	1 インチ × 1
IG3 TR / IG4 TR	1.4 インチ × 1

② ウーファー

	ウーファー
IG1 TR	6.5 インチ × 2
IG2 TR	8 インチ × 2
IG3 TR	10 インチ × 2
IG4 TR	6.5 インチ × 4

リア



③ コントロールパネル

(右上「コントロールパネル」を参照)

④ アンプ部

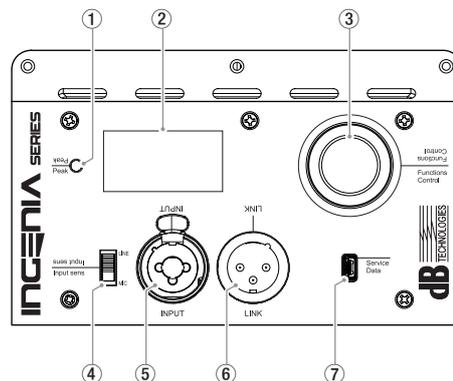
⑤ 電源パネル

(9 ページ「電源パネル」を参照)

⑥ RDNet Data In/Data OUT (etherCON 端子)

(右ページの「RDNet アダプター」を参照)

コントロールパネル



① Peak LED (ピーク LED)

電源投入時に短く点灯、またリミッター動作時に点灯。

注意

ピーク LED が連続して点いたり、点滅を繰り返したりする状態で長時間連続使用しないでください。歪み音を伴う過度の負荷がかかっている状態を示しています。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

② ディスプレー (有機 EL)

③ Functions Control

スイッチ付きロータリーエンコーダー

④ Input sens

入力感度セレクトター (MIC/LINE)

⑤ INPUT

XLR/TRS コンボジャック入力 (バランス)
(9 ページ「オーディオ入力の接続」を参照)

⑥ LINK

XLR 端子出力 (バランス)
(10 ページ「オーディオ信号の接続」を参照)

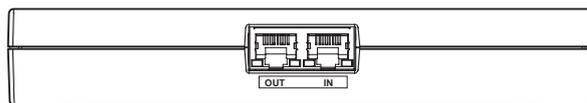
⑦ Service Data

F/W アップグレード専用 USB 端子
(17 ページ「F/W アップデート」を参照)

注意

この USB 端子は F/W のアップデート専用です。他の USB 機器を接続しないでください。スピーカーにダメージを与えたり不具合の原因になります。

RDNet アダプター



データネットワーク接続の入力 / 出力用端子

別売りのネットワークコントローラー RDNet Control 2 または RDNet Control 8 に接続します。

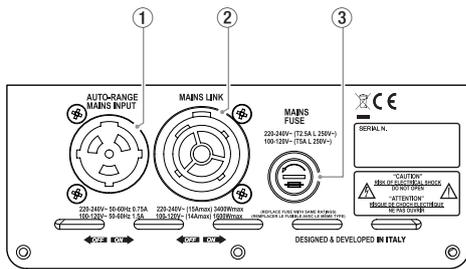
また、他の RDNet 対応スピーカーからデジチェーン接続 (*) として使用します。(11 ページ「RDNet の接続」を参照)

* 市販品の LAN ケーブルが必要です。

カテゴリー 5e 以上のケーブルをご使用ください。

各部の名称

電源パネル



① AUTO-RANGE MAINS INPUT

AC電源 端子 (Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子)
付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードを接続します。

- 電源コードを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。

注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

② MAINS LINK

電源 Link 端子 (Neutrik 社製 NAC3PX 端子)
他のサブウーファーやアクティブスピーカーなどにデジチェーン接続 (10 ページ「電源リンクの接続」を参照) で、電源を供給する端子です。

- 電源 LINK ケーブルを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。
ご使用時は、別売りの専用 Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルをお使いください。

注意

- 電源コードは、付属の Neutrik 社製 PowerCON TRUE1 電源コードをご使用ください。それ以外のケーブルを使用すると感電および機器を破損する恐れがあります。
- デジチェーン接続で、電源供給する場合は、別売りの DPTC-120L または DPTC-160L (Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル) を使って電源を供給してください。(電源 LINK ケーブルについては、18 ページの「アクセサリのダウンロード先」参照してください。)
それ以外の方法で電源供給を絶対に行わないでください。その場合、感電および機器を破損する恐れがあります。
- MAINS LINK (電源 Link 端子) の最大供給電流は、下記の表に記述してある許容範囲まで、デジチェーン接続で他のスピーカーを接続することができます。

	MAINS LINK 端子の最大供給電流 (100-120V 時)
IG1 TR	max 14 A/1600 W
IG2 TR	↑
IG3 TR	max 10 A/1200 W
IG4 TR	↑

最大供給電流を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。

③ MAINS FUSE

フューズホルダー

万一、動作しなくなった場合は、電源プラグを抜いてティアック修理センター (裏表紙に記載) にご相談ください。

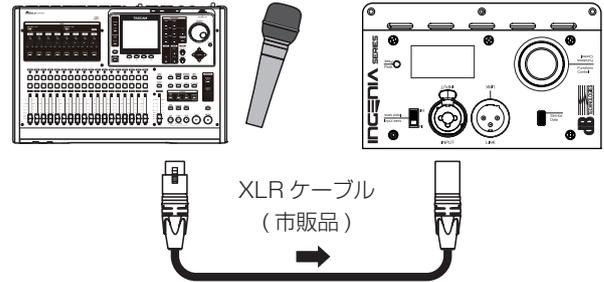
接続方法 (基本的な接続方法)

オーディオ入力の接続

Input sens (入力感度セクター) を音源のタイプに合わせて、ライン信号またはミキサーからの入力する場合は、LINE 側に、マイク (ダイナミック マイクのみ) から入力する場合は、MIC 側に設定してから、オーディオ入力端子にケーブルを正しく接続してください。

- オーディオケーブルについては、次項の「適合ケーブル」を参照で確認してください。

音源側の機器



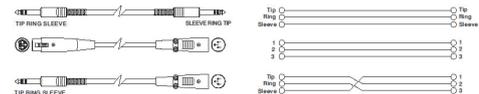
入力感度セクター



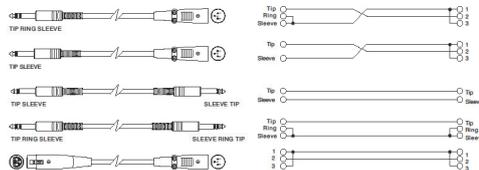
適合ケーブル

INGENIA シリーズに適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

バランスケーブル



アンバランスケーブル



注意

- ケーブルの接続 / 取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

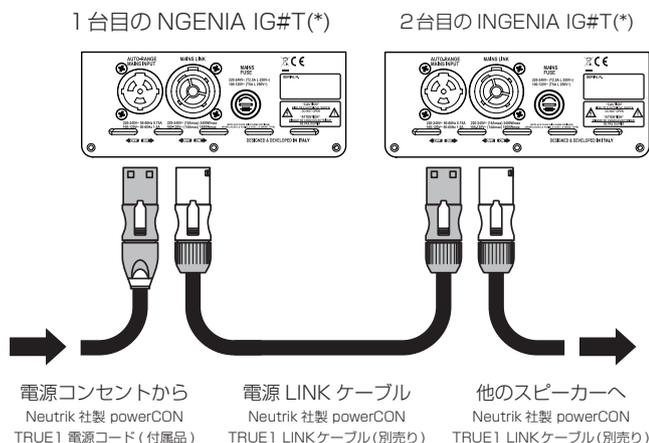
電源および外部機器との接続

本機は、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカーから、2台目以降のスピーカーにデジチェーン接続で電源を供給することができます。

注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

電源と電源リンクの接続



* "#" は、本機の型名になります。

電源の接続

本機の **AUTO-RANGE MAINS INPUT** (AC 電源 端子) に付属の Neutrik 社製 PowerCON TRUE1 電源コードを接続し、時計回りに端子を回転させてロックしてください。ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

レベル / ゲインコントロール

電源を入れるとピークLEDが一瞬短く点灯し、ディスプレイにレベル/ゲインコントロール画面を表示します。**Functions Control** (スイッチ付きロータリーエンコーダー) を回して適切なレベルまでシステムゲインを調整し、正しくスピーカーから音が出ているか確認してください。



電源リンクの接続

本機の **MAINS LINK** (電源 Link 端子) は、1台目から2台目に Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) を使って、デジチェーン接続が可能です。

- 1台目の **AUTO-RANGE MAINS INPUT** (AC 電源 端子) に、付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードを前述の「電源の接続」の方法で接続し、その片側を電源コンセントに接続します。
- 次に、Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) で、1台目の **MAINS LINK** (電源 Link 端子) と2台目の **AUTO-RANGE MAINS INPUT** (AC 電源 端子) に接続します。

上記の接続を繰り返し、1台目の **MAINS LINK** (電源 Link 端子) の下側に記載された最大供給電流 (*) に達するまで、2台目以降のスピーカーを接続することが可能です。

* 最大供給電流については、9 ページの「電源パネル」を参照

注意

- 電源コードは、付属の Neutrik 社製 PowerCON TRUE1 電源コードをご使用ください。また、電源 LINK ケーブルも必ず、Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) をお買い求めの上、ご使用ください。

- それ以外のケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。

(弊社は、不適切なケーブルやコード 類またはアクセサリーの使用もしくは追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)

電源 LINK ケーブル (別売り)

- DPTC-120L (IG1 TR/IG2 TR 電源 LINK 用)
(powerCON TRUE1 LINK ケーブル 120 cm)
- DPTC-160L (IG3 TR/IG4 TR 電源 LINK 用)
(powerCON TRUE1 LINK ケーブル 160 cm)
(電源 LINK ケーブルの仕様については、18 ページの「アクセサリーのダウンロード先」を参照してください。)
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- INGENIA シリーズ本体に記載された最大供給電流は、**MAINS LINK** (電源 Link 端子) の最大許容電流によって、定められています。実際のスピーカーを接続する前に、システム全体の最大消費電力が、使用する電源プラグや電源コードの最大許容電流の範囲内かチェックしてください。
- 濡れた手または、機器や電源コード (または電源 LINK ケーブル) が濡れた状態で、絶対に電源コードやケーブルの接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。

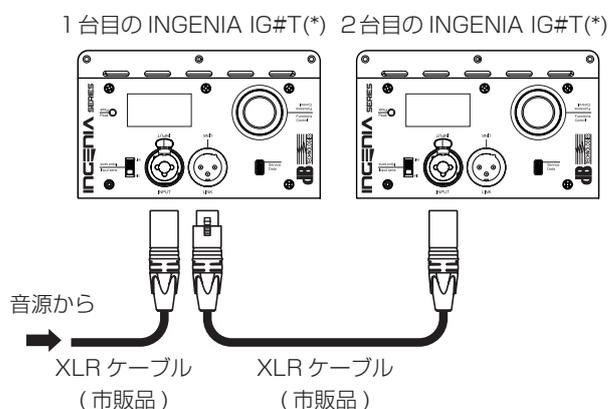
オーディオ信号の接続

同一音源を2台以上のスピーカーに接続する場合、1台目から2台目送出することができます。

注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器は音声出力を行わない、または音量を最小にして下さい。
- ケーブルの接続や取り外しは必ず、本機の電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

この接続を行うには、まず音源機器から1台目の **INPUT** 端子に接続した後、バランス XLR ケーブル (市販品) を使って1台目の **LINK** 端子と2台目の **INPUT** 端子に接続します。



* "#" は、本機の型名になります。

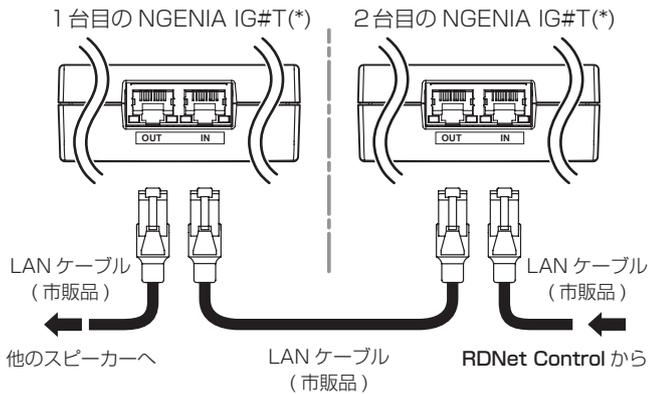
上記の接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができ、スピーカー構成に沿ったデジチェーン接続が可能です。

RDNet の接続

本機を RDNet 接続でリモート操作を行う場合に使用します。

- 別売りのネットワークコントローラー (RDNet Control 2 や RDNet Control 8) を使用して、本機のスピーカーの IN 端子にネットワークコントローラーからの LAN ケーブル (*) を接続します。
- RDNet 接続で複数機を制御する場合、1 台目の OUT 端子から 2 台目の IN 端子に別売りの LAN ケーブル (*) で接続します。

* 市販品の LAN ケーブルが必要です。
 カテゴリ 5e 以上のケーブルをご使用ください。



* "#" は、本機の型名になります。

上記の接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のスピーカー構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- RDNet Control 2 : 1 ch/32 台 × 2 ch 最大 64 台
- RDNet Control 8 : 1 ch/32 台 × 8 ch 最大 256 台

ネットワークコントローラーの使用法の詳細は、18 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

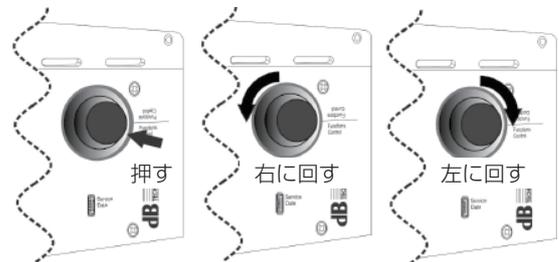
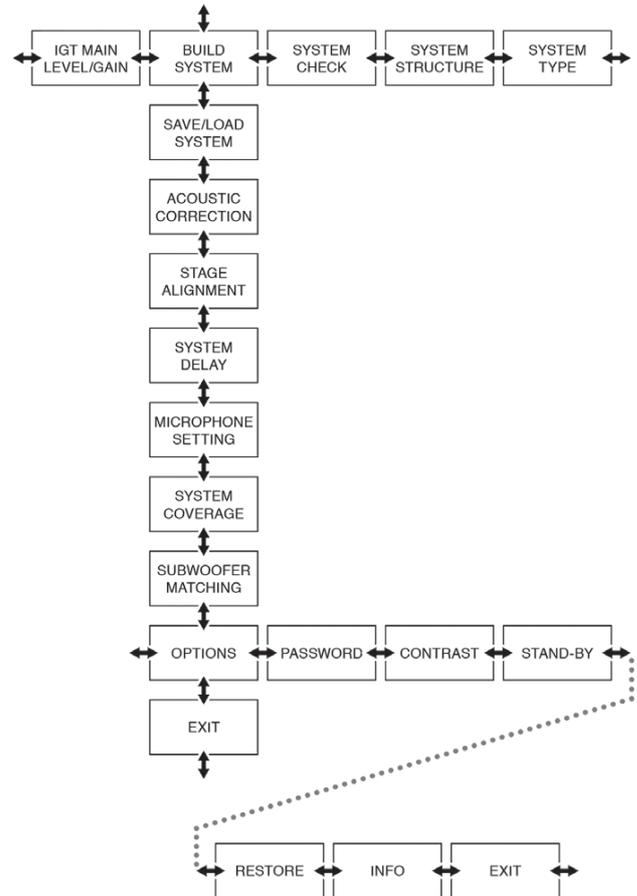
設定メニュー (概要)

INGENIA シリーズでは、屋外でも見やすい有機 EL ディスプレーで確認しながら、様々な設定を Functions Control (スイッチ付きロータリーエンコーダー *) で行えます。また、すべての設定はパスワードによって保護することができます。

* 以降、Functions Control と略します。

メニュー構成

INGENIA シリーズのメニューは、以下のような構成になっています。(メニュー選択ウィザード)



メモ

- [SYSTEM COVERAGE] メニューは、INGENIA シリーズの同一機種種の 2 台を縦にスタックさせた (6 ページ「設置方法」を参照) 場合、ハンドルに内蔵された赤外線通信システムによって、お互いを自動認識された場合のみ表示されます。
- [SYSTEM COVERAGE] メニューは、設定メニューでサブウーファァーの存在が、選択された場合のみ表示されます。

スタンバイ時（ホーム画面）

スタンバイ中でも INGENIA シリーズのディスプレイは、設定されたレベル値とゲイン値を表示するホーム画面を表示します。



メモ

- 手動設定した場合は、スピーカーの電源を切った後でも設定値が保持されています。
- 何もメニュー操作しない状態が約1分経過した場合、ディスプレイは、このホーム画面（レベル/ゲイン表示）に戻ります。また、ホーム画面に戻る方法は、以下の2通りあります。
A：サブメニュー内にいる場合は、ホームアイコンを選択。
B：Functions Control を数秒間、長押しする。
- 同一機種2台を縦にスタックして（6ページ「設置方法」を参照）使用している場合、内蔵 DSP は自動的に動作中のアンプを制御し、メニュー操作に関係なくシステム全体に適合した調整/設定保存を行います。（ミラーリング表示）

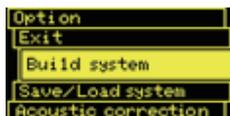
電源オン時（メインメニュー）

INGENIA シリーズの電源を入れるとディスプレイは、レベルとゲインに加え、擬似 VU メーターのメインメニューを表示します。この画面で、Functions Control を操作すると、メニュー構成に示す、メニュー選択ウィザードに移動できます。（11ページ「メニュー構成」を参照）

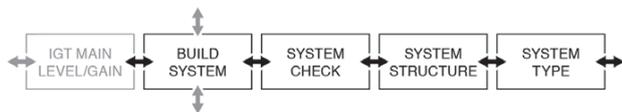
設定メニュー [スピーカー構成の設定]

BUILD SYSTEM（ビルドシステム）

メニュー選択ウィザードから Functions Control を回して、「BUILD SYSTEM」を選択し、Functions Control を押します。



このメニューは、接続した INGENIA シリーズのスピーカー数やサブウーファースの有無、さらにはスピーカーの配置や傾きを INGENIA シリーズが自動的に認識/設定します。スピーカー構成に関する以下の3つのサブメニューがあります。



SYSTEM CHECK（システムチェック）

INGENIA シリーズのハンドルに内蔵された赤外線通信システムによってスピーカー構成が、1台のみか2台の INGENIA シリーズなのか、自動的に認識します。

Functions Control を回して、「SYSTEM CHECK」を選択し、Functions Control を押します。

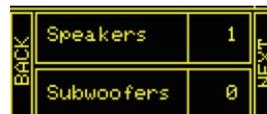


このサブメニューを表示させたのち、次の操作を行ってください。

1. Functions Control を回して、「Selfcheck System」を選択し、Functions Control を押して実行します。
2. 短いアニメーションの後にメニューは自動的に、次の項目 [SYSTEM STRUCTURE] メニューに移動します。
3. この工程が不要の場合は、「NEXT」を選択/実行してください。メインメニューに戻る場合は、「BACK」を選択/実行してください。

SYSTEM STRUCTURE（システムストラクチャー）

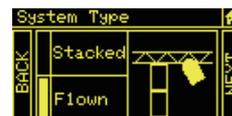
このサブメニューは、必要に応じてサブウーファースの追加や削除などシステムを手動で設定することができます。



1. Functions Control を回して、「Subwoofers」を選択して、Functions Control を押してください。
2. 設定したいサブウーファースの数を選んでください。
3. 「NEXT」を選択して確定すると、次のメニューに移動します。「BACK」を選択すると、システムチェック（12ページ「SYSTEM CHECK（システムチェック）」を参照）のサブメニューに戻ります。

SYSTEM TYPE（システムタイプ）

このサブメニューは、INGENIA シリーズを以下の設定で、接続している場合に使用できます。



- Stacked（スタック）で設置
スタックとは、1台の INGENIA シリーズをスタンドに設置されている、または1台が同一機種2台をサブウーファース上に設置されている状態を指します。（6ページ「設置方法」を参照）
- Flow（吊り下げ）で設置
吊り下げ設定では、1台の INGENIA シリーズまたは同一機種2台を天井またはバトンなどから、吊り下げられている状態を指します。（6ページ「設置方法」を参照）
- [SYSTEM TYPE] メニューを表示させた後、「Stacked」または「Flow」のどちらかを設定したいモードを選択し、「NEXT」を選択して確定すると次のメニューに移動します。（「BACK」を選択すると、前のメニューに戻ります。）
- INGENIA シリーズが、事前に複数のスピーカーを認識している場合は、[SYSTEM COVERAGE] メニューに移動します。（14ページの「設定メニュー [指向性の設定]」を参照）

また、事前に「サブウーファース有り」を選択されている場合は、[SUBWOOFER MATCHING] メニューに移動します。

それら以外の場合（INGENIA シリーズが1台、サブウーファースなし）は、メインメニューに戻り、この項目の設定は終了です。

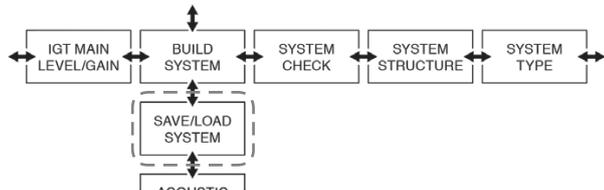
注意

- INGENIA シリーズは、床に直置きで設置せず、必ず別売りの GSA-IG グランドスタッキングアダプターを使用してください。（6ページ「フロア設置」を参照）
- 安全上の理由により三脚を使用する場合、INGENIA シリーズの同一機種を2台スタックさせず、常に1台でご使用ください。（6ページ「三脚を使用して設置」を参照）

設定メニュー [設定の保存 / 呼出]

SAVE/LOAD SYSTEM (セーブ / ロード システム)

このメニューは、5つの異なるシステム設定を名前をつけて保存することができ、簡単に呼び出すことができます。



INGENIA シリーズは、電源を切っても最後に使った設定を保持しますが、複数の異なる構成など以前に保存したシステム設定を素早く呼び出すことができます。

設定の保存方法

1. **Functions Control** を回して、"**SAVE/LOAD SYSTEM**" を選択して、**Functions Control** を押してください。
2. 1.~5. までのメモリー番号を選択してください。
3. "**SAVE**" を選択してください。
4. 保存名を入力してください。英数14文字まで入力可能です。一文字ごとに入力確定し、入力が終わったらスペース () を入力して確定してください。
5. 次の画面で "**OK**" を選択してください。入力したタイトル名で保存されます。

保存した設定の呼出方法

1. **Functions Control** を回して、"**SAVE/LOAD SYSTEM**" を選択して、**Functions Control** を押してください。
2. 呼び出したいメモリー番号を選択してください。
3. "**RECALL**" を選択してください。
4. "**OK**" を選択してください。(次の画面に移動します。)
呼び出した設定が適用され、メニューはメインメニューに戻ります。

注意

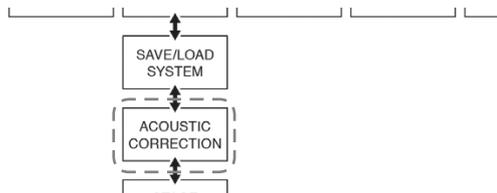
設定を上書きする場合は、上書きされるメモリー番号を選択して、確認画面で "**OK**" を選択してください。

設定メニュー [イコライザー設定]

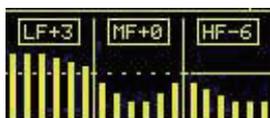
Acoustic Correction (アコースティック コレクション)

イコライザー調整

INGENIA シリーズでは、内蔵 DSP によるイコライザー調整でスピーカー出力の補正が可能です。



イコライザー調整は、[ACOUSTIC CORRECTION] メニューで操作できます。



このサブメニューを表示させたのち、次の操作を行ってください。

1. イコライザー調整したい周波数帯を選択してください。
 - a. "**LF**" : 低域 (+3 dB, -6 dB, 0.5 dB ステップ)
 - b. "**MF**" : 中域 (+0 dB, -6 dB, 0.5 dB ステップ)
 - c. "**HF**" : 高域 (+3 dB, -6 dB, 0.5 dB ステップ)
2. イコライザーを調整してください。
3. 他の周波数帯も調整する場合は、手順1.に戻ってください。
終了する場合は、ホームアイコン  からメインメニューに戻ってください。

メモ

イコライザー調整で、音の明瞭度を上げたり、強すぎる周波数帯を減衰させたりすることができます。部屋の音響特性や屋外の環境に合わせて、適正な音響設定に置き換わるものではありません。

設定メニュー [マイク設定]

MICROPHONE SETTING (マイクロホン セットアップ)

マイク設定メニュー

INGENIA シリーズは、XLR 端子によるマイク入力が可能です。



この入力を使った場合、調整可能なハイカットフィルターを使って不要な周波数をカットしたり、ノッチフィルターまたは中央周波数を選択可能なバンドストップフィルターを介入させることでフィードバックを防ぐことができます。

これらの設定には、[MICROPHONE SETTING] メニュー内の以下の手順で行います。

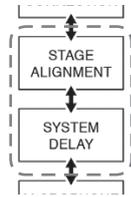


1. **Functions Control** を回して、"**HP Filte**"(ハイパスフィルター) を選択し、**Functions Control** を押してください。
2. ハイパスフィルターのカットする周波数を [50~200 Hz] の範囲内から選択し、スイッチを押してください。
(10 Hz ステップおよび "**NONE**" 選択時は、ハイパスフィルターが無効になります)
3. "**Antifeedback**"(アンチ フィードバック) を選択し、スイッチを押してください。
4. 周波数の中央値を [260~15,000 Hz] の範囲内から選択し、スイッチを押してください。(10 Hz ステップまたは "**NONE**" 選択時は、**Antifeedback** フィルターが無効になります)
5. ホームアイコン  を選択して、メインメニューに戻ってください。

設定メニュー [ステージアライメント / ディレイ設定]

STAGE ALIGNMENT/SYSTEM DELAY (ステージアライメント / システムディレイ)

INGENIA シリーズでは、スピーカーの配置や設置空間の形状、障害物などに起因するディレイを補正するための設定を、距離または時間で指定することができます。



STAGE ALIGNMENT (ステージアライメント)

ライブ会場におけるステージに設置したギターアンプや打楽器のような自然の音など、異なる音源の増幅を狙った音源の距離 (メートルまたはフィート単位) を特定して、INGENIA シリーズの複数の同一機種を仮想的に揃え、あらゆるライブ場面で求められるディレイのない単一の音を得ることができます。

INGENIA シリーズに搭載している内蔵 DSP が、スピーカー出力のディレイを自動的に調整し、効果の最大化を図ります。

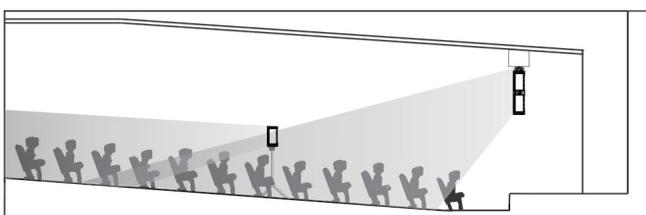


設定は、以下の手順で行います。

1. **Functions Control** を回して、"DISTANCE" を選択し、スイッチを押してください。
2. 指定する距離 [0~15 m (20 cm 刻み)] を選択し、スイッチを押してください。
3. ホームアイコン  を選択して、メインメニューに戻ってください。

SYSTEM DELAY (システムディレイ)

奥行きまたは幅が極端に、細長い屋内空間や障害物がある場所などで INGENIA シリーズを使用する場合、どの場所でも聴き手が単一の明確な音を得られるように適切なディレイをかけることができます。



奥行きがある空間に有効なディレイ設定

この [SYSTEM DELAY] メニューでは、ディレイ時間または、距離を指定することができるので、使用する環境によって有用な機能です。



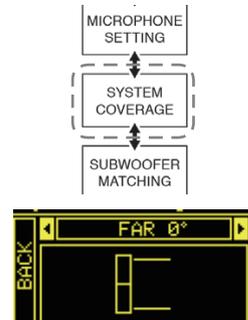
1. **Functions Control** を回して、"DELAY" を選択し、**Functions Control** を押してください。
2. 希望するディレイ値 [0~126 ms]、または距離で指定する場合、[0~43.7 m/0~143.4 ft] を選択し、スイッチを押してください。
3. ホームアイコン  を選択して、メインメニューに戻ってください。

設定メニュー [指向性の設定]

SYSTEM COVERAGE(システムカバレッジ)

指向性の設定

このメニューは、設置時のシステムチェックによって、自動的に INGENIA シリーズの同一機種の2台が認識された場合 (縦にスタックした場合) のみ表示され、デジタルステアリング技術により下記の7段階のプリセットから指向性の選択が可能です。



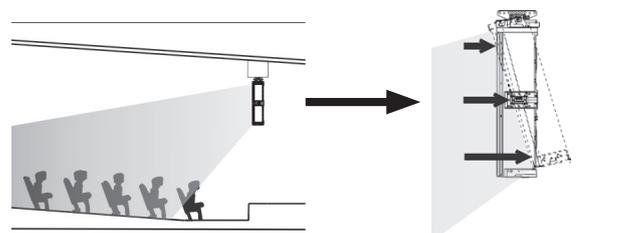
Functions Control を回して、下記のプリセットから選択し、**Functions Control** を押します。

- UP +10 : スタンドやサブウーファー上に設置した場合、できるだけ上向きの指向性によるボトムアップが必要な場合に選択します。
- UP +5 : スタンドやサブウーファーに設置した場合、上向きの指向性が必要な場合に選択します。
- UP +2.5 : やや上向きの指向性が必要な場合に選択します。
- FAR 0 : スピーカーがホールの正面で、聴き手と同一高さであり、できるだけ遠くまでカバーしたい場合に選択します。
- DOWN -2.5: 吊り下げ設置の場合で、やや下向きの指向性が必要な場合に選択します。(スピーカーと聴き手の距離が極端に離れていない場合など)
- DOWN -5 : 吊り下げ設置の場合で、下向きの指向性が必要な場合に選択します。(スピーカーと聴衆の距離が接近している場合など)
- DOWN -10 : 吊り下げ設置の場合で、できるだけ下向きの指向性が必要な場合に選択します。(スピーカーと聴衆が非常に接近している場合など)

メモ

デジタルステアリング技術とは、INGENIA シリーズのスピーカーの配置や設置場所に合わせて、同一機種の2台をスタックしたスピーカーの指向性を狙った方向に設定できる技術です。

INGENIA シリーズに内蔵 DSP は、個々のトランスデューサー (コンプレッション ドライバー、およびウーファー) を異なるディレイ設定で動作させることで、スピーカーの指向性をコントロールし、下図に示すように1台の仮想的に傾斜したスピーカーに相当する指向性を作り出すことが可能です。



下向きの指向性が必要な場合

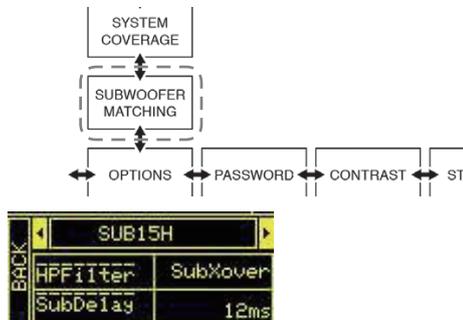
傾斜を仮想的に実現

設定メニュー [サブウーファー設定]

SUBWOOFER MATCHING(サブウーファー マッチング)

サブウーファーの設定

このメニューでは、事前に [Build System] メニューのサブメニュー [SYSTEM STRUCTURE] メニューで1台以上のサブウーファーが選択されている場合のみ表示されます。



さらに、この場合は **SYSTEM TYPE** 設定を行った後、自動的にこのメニューにアクセスでき、総合システム設定を完了することができます。

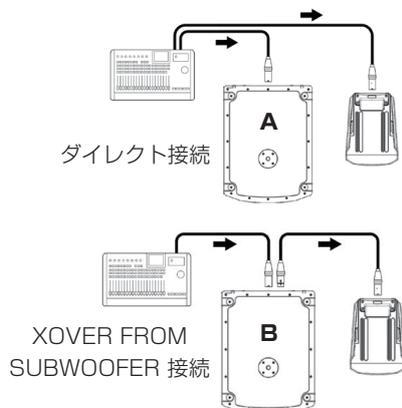
このメニューは、サブウーファーのディレイ設定も行います。

クロスオーバー周波数の選択は、[SUBWOOFER MATCHING] メニューの以下の項目から行えます。

1. **Functions Control** を回して、接続したサブウーファーのタイプを選択し、**Functions Control** を押してください。
2. **Functions Control** を回して、"**HP Filter**" を選択し、**Functions Control** を押してください。
クロスオーバー周波数を設定して、**Functions Control** を押してください。
3. システムセッティングに従い、"**SubDelay**" の項目からサブウーファーに合ったディレイ 値を確認してください。
4. "**BACK**" を選択してメニューに戻るか、またはホームアイコン  からメインメニューに戻ってください。

また、接続されたサブウーファーを特定して固有のクロスオーバー周波数 (またはサブウーファー) に合わせて、70~120 Hz の範囲内で、5 Hz ステップで設定するかを選択でき、さらに下図のようにサブウーファーの接続タイプによっても選択できます。

必要に応じて、サブウーファーのクロスオーバー周波数設定を使わずに INGENIA シリーズのハイパスフィルターの値を直接調整することができます。



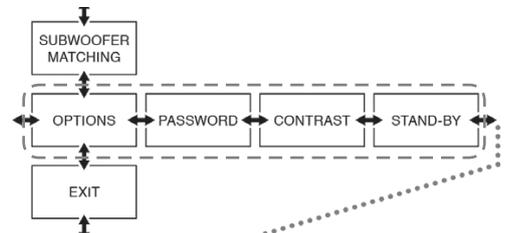
- A** : ダイレクト接続の場合、サブウーハーのクロスオーバー周波数をチェックし、INGENIA シリーズのハイパスフィルターの値をその周波数に設定します。
- B** : XOVER FROM SUBWOOFER 接続の場合、INGENIA シリーズのハイパスフィルターを "**SubXover**" に設定します。

設定メニュー [オプション設定]

このメニューでは、本機の初期化・その他の機能の設定や確認が行えます。

Functions Control を回し、"**Option**" を選択して、**Functions Control** を押してください。

Option(オプション)



パスワードの設定

- ON/OFF : パスワード保護の有効または無効を選択できます。
- ----- : 英数字6文字以内で任意のパスワードを設定することができます。

スーパーパスワード

パスワードを忘れた場合は、以下のスーパーパスワードを入力することでシステムを解除できます。

[Q2R5D9]

コントラスト

ディスプレイのコントラストを [0~100%] の範囲で、[5%] ステップで調整することができます。

スタンバイ

オートスタンバイの有効 / 無効、およびオートスタンバイに入るまでの時間を設定します。

- ON/OFF : オートスタンバイの有効または無効を選択できます。
- XXmXXS : オートスタンバイに入るまでの時間を [10秒~10分] の範囲で、[10秒] 間隔で設定できます。

レストア

INGENIA シリーズを工場出荷時の状態に戻す場合に選択します。

INFO

F/W バージョンの表示をします。

EXIT

INGENIA シリーズのメインメニューに戻ります。

AURORA NET コントロール

AURORA NET ソフトウェアを使用して、RDNet 接続による本機のパラメーターをリモートコントロールで設定可能です。

メモ

- 本機をネットワーク接続で制御をする場合、本機での各種設定はバイパスされ、AURORA NET ソフトウェアでの設定が優先されます。(スピーカー単体でのローカル設定は、使用されません。)
- 設置前に本機、およびシステム全体のスピーカーのパラメーターを物理的に複製保存することをお勧めします。

本機の電源を入れたら、以下の手順でリセットしてください。

1. メニュー選択ウィザードから **Functions Control** を回して、"**BUILD SYSTEM**" を選択し、**Functions Control** を押します。
2. **Functions Control** を回し、"**Option**" を選択して、**Functions Control** を押してください。
3. [Option] メニューから "**RESTORE**"(*) を選択して、**Functions Control** を押してください。

* 本機を工場出荷時の状態に戻します。

4. 用途に合わせて、メニュー選択ウィザードから本機の各種設定を行います。

上記の手順が完了後、ディスプレイの右上に本機 [スピーカー名] の横に "AURORA" のロゴが表示されていることを確認してください。

- 本機を2台でマウントする場合は、下側の本機に RDNet 接続を行ってください。(両方に接続する必要はありません。)

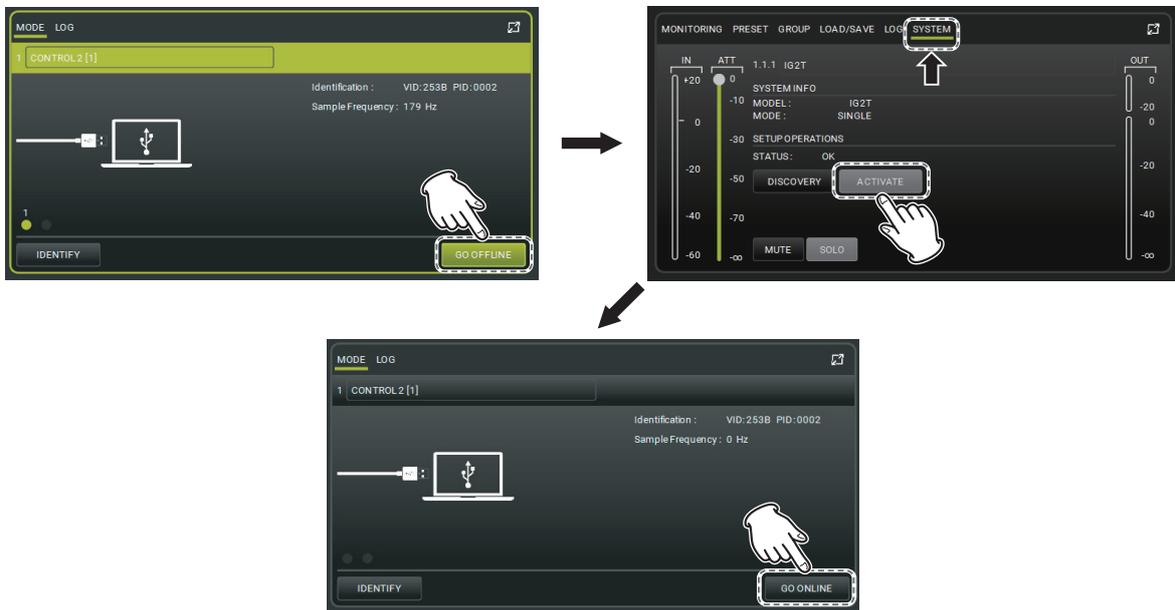
AURORA NET ソフトウェアのセットアップについて

本機と RDNet 接続したパソコンの AURORA NET ソフトウェア (以降、AURORA NET と略します) を立ち上げます。

- AURORA NET を開き、[GO ONLINE] ボタンを押します。
- 画面上に本機の型名 [IG#T(*)] が表示された場合は、AURORA NET のセットアップが正常に完了しています。
* "#" は、本機の型名になります。
- 画面上にデバイス名として [INGENIA] と表示されている場合は、AURORA NET が本機を検出しておらず、セットアップが正しく認識されていないことを意味します。

AURORA NET が本機を認識していない場合、次の手順をお試しください。

1. 画面上の [GO OFFLINE] ボタンを押して、オフラインに戻ります。
2. 次に [SYSTEM] を選択して、[DISCOVERY] 画面に進みます。
3. [DISCOVERY] 画面の [ACTIVATE] ボタンが表示されたら、そのボタンを押して [GO ONLINE] ボタンを押します。



- 画面上に本機の型名 [IG#T(*)] が表示された場合は、AURORA NET のセットアップが正常に完了しています。
- AURORANET ソフトウェアの入手方法は、17 ページの「AURORA NET ソフトウェアのダウンロード」を参照してください。

各種ダウンロード

注意

F/Wアップデーター、およびを各種ソフトウェアをダウンロードする場合、dBTechnologies のウェブサイトで、お客様のユーザー登録を行ってください。(→ 5ページを参照)

ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとダウンロード先 (MY DOWNLOAD ページ) に移動しません。

ソフトウェアの使用に関して

本ソフトウェアは、AEB INDUSTRIALE s.r.l. に帰属し、使用に際しては、同社の定める使用許諾条件によります。

F/W アップデート

注意

- F/W アップデート中は、パソコンの電源を切らないでください。故障の原因になります。
- F/W アップデート後の電源投入で、保存した各種設定が失われる場合があります。

USB Burner Manager ソフトウェアのダウンロード

本機の全ての機能を実際に使うためには、F/W を常に最新のものにしておくことをお勧めします。

dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページを定期的にチェックしてください。F/W の更新があった場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

dBTechnologies のウェブサイトでログイン後、下記サイトから本ソフトウェアをダウンロードできます。

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

1. 上記のダウンロードページから "Software & Controllerr" を開いて、**USB BURNER MANAGER**ソフトウェア (zip 形式) をお使いのパソコンにダウンロードしてください。ダウンロード後、解凍してください。解凍後、実行ファイル (exe ファイル) を開いて、表示される手順に従ってインストールしてください。
- **USB Burner Manager** ソフトウェアの取扱説明書については、上記のダウンロードページから、"**Software & Controllerr**" の項目を開いて、上段の "**Manuals**" の列から PDF ファイルをダウンロードしてください。

F/W アップデートのダウンロード

2. 次に上記のダウンロードページから "**INGENIA**" を開いて、上段の "**Firmware**" の列と対象となる "**IG#T**" (*) 機種種の行から、最新の F/W (zip 形式) をダウンロードしてください。ダウンロード後、解凍してください。
* "# " は、本機の型名になります。

F/W アップデート

3. 本機の [Service Data] 端子とパソコンを USB ケーブル (*) で接続してください。
* 充電用 USB ケーブルは、使用できません。
4. **USB BURNER MANAGER** ソフトウェアを起動し、画面右上から、"**File Opening...**" を選択してください。
5. 先程ダウンロードした F/W を選択してください。
(お使いのシステムに最適かチェックします。)
6. "**UPDATE**" をクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

AURORA NET ソフトウェアのダウンロード

注意

ソフトウェアをダウンロード中は、パソコンの電源を切らないでください。故障の原因になります。

ダウンロードとインストール方法

ダウンロード

dBTechnologies のウェブサイトでのログイン後、下記サイトから本ソフトウェアをダウンロードできます。

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

上記のダウンロードページから "**Software&Controller**" の項目を開いて、上段の "**Software**" の列から Windows または Mac OS のファイル (Zip 形式) を選択すると、**MY DOWNLOAD** ページに移動します。

そのページから目的のファイルを選択して、ファイル (Zip 形式) をダウンロードしてください。

インストール

- Windows
ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、自己解凍型のファイルを開き、現れたフォルダー内の setup.exe ファイルを開いてください。
- Mac OS
ダウンロードしたディスクイメージを開き、**AURORA NET** のアイコンをアプリケーションフォルダーにドラッグしてください。

システム推奨条件 (Windows)

- OS : Windows 7 (SP1以降、64bitのみ) 以上
- CPU : デュアルコアプロセッサ 以上
- メモリー : 4GB 以上の RAM を推奨

システム推奨条件 (macOS)

- OS : OS X Sierra (10.12以降、64bitのみ) 以上
- CPU : デュアルコアプロセッサ 以上
- メモリー : 4GB 以上の RAM を推奨

また、別売りのネットワークコントローラー (**RDNet Control 2** や **RDNet Control 8**) を使用する場合は、以下のデバイス機器用端子の装備が必要です。

- Ethernet 端子 (RJ45)
対応規格 : 100BASE-TX、1000BASE-T
- USB 端子 (USB2.0 タイプ A)
対応規格 : USB2.0 Hi Speed (480Mbps)

メモ

- **RDNet Control 8** とパソコン間の接続は、Ethernet または USB 接続が可能です。
- **RDNet Control 2** とパソコン間の接続は、USB 接続のみになります。

各種ダウンロード (続き)

アクセサリのダウンロード先

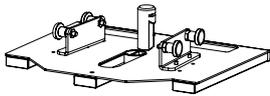
各アクセサリについては、下記 dBTechnologies 社のウェブサイトの中からご覧になれます。

- 設置用アクセサリの取扱説明書ダウンロードページ

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

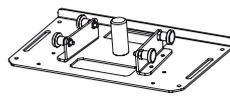
上記の dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Installation" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前の PDF ファイルをダウンロードしてください。

設置用アクセサリ



GSA-IGA

(サブウーファーマウントアダプター)



GSA-IG

(グラウンドスタッキングアダプター)



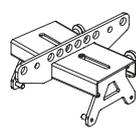
LP-IG

(リンクブラケット)



IG-WB

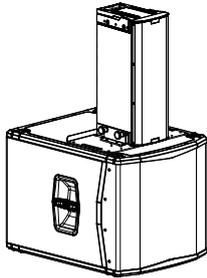
(ウォールブラケット)



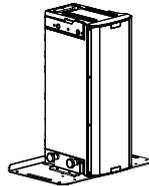
DRK-IG

(フライバーアダプター)

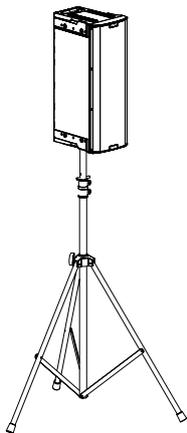
設置用アクセサリの使用例



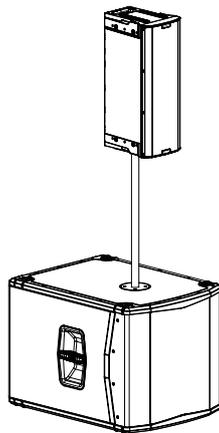
サブウーファー上に設置



フロア設置



ポールマウント設置



サブウーファー上に
ポールマウント設置

- ケーブル類のダウンロードページ

各種ケーブルの形状やケーブル長を確認できます。

<https://www.dbtechnologies.com/en/products/accessories/cables/>

リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前の PDF ファイルをダウンロードしてください。

- ダウンロードページ

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

- RDNet Control 2 取扱説明書

"RDNet CONTROL 2_cod420120189_Rev#.#-MAN.pdf"(*)

- RDNet Control 8 取扱説明書

"RDNET_CONTROL8_MAN_REV#.#.pdf"(*)

*"#.#" は、リビジョン番号なります。

トラブルシューティング

スピーカーの電源が入らない。

1. 電源がシステムに供給されていることを確認してください。
2. 付属のNeutrik社製PowerCON TRUE1 電源 コードの端子が、しっかり接続されているか確認してください。

スピーカーの電源は入るが、音が出ない。

1. 入力端子が正しく接続されており、付属のNeutrik社製PowerCON TRUE1 電源 コードをご使用が確認してください。
2. ケーブルに損傷がないか確認してください。
3. INGENIA シリーズに接続した音源などのミキサーから、正しく音が出ていることを確認してください。
4. 初期スクリーン(10ページ「レベル/ゲインコントロール」を参照)でゲインレベルが適正な値に設定されているか確認してください。

スピーカーの音が歪んでいる。

1. まず音源側のボリュームを調整し、INGENIA シリーズの入力ゲインを適正な値に調整してください。
2. 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、交換してください。(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。)
3. 出力周波数に関する以下の設定を確認してください。
 - A: 音質補正
 - B: マイク設定(マイク接続時)

システム構成メニューで2台のスピーカーを認識せず、1台のみしか表示されない。

(12ページ「設定メニュー[スピーカー構成の設定]」を参照)

1. 2台のスピーカーが正しく接続されている事を、確認してください。
 - 縦にスタックでは、上部のスピーカーは反転状態で、別売のLP-IG リンクブラケットで正しく固定されているか確認してください。(7ページ「2台の本機を縦にスタックさせて使用する場合」を参照)
 - 付属のNeutrik社製PowerCON TRUE1 電源 コードまたは、別売りのNeutrik社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブルおよび音源 ケーブルが、しっかり接続されているか確認してください。
2. 両方のスピーカーのハンドルに内蔵されている赤外線通信システムが、布やテープなどでカバーされていないか確認してください。(6ページ「設置方法」を参照)
3. システムチェックメニューで、システムセルフチェックを実行してください。

(12ページ「設定メニュー[スピーカー構成の設定]」を参照)

スピーカーの電源が入っているにも関わらず、設定できないメニュー項目がある。

1. パスワードでロックされていないか確認してください。
2. **Functions Control**(スイッチ 付きロータリーエンコーダー)が正常に動作(回転、プッシュ)しているか、確認してください。

スピーカーからの音が音源に対してディレイしている。

- 下記メニュー設定でディレイに影響する設定がされていないか確認してください。
 - A: STAGE ALIGNMENT
(14 ページの「STAGE ALIGNMENT (ステージアライメント)」を参照)
 - B: SYSTEM DELAY
(14 ページの「SYSTEM DELAY (システムディレイ)」を参照)

ディスプレイがクリアに表示されない。

- OPTIONメニューのCONTRASTサブメニューを確認して、ディスプレイの明度を調整してください。

(15ページ「設定メニュー[オプション設定]」を参照)

仕様

形式

2-Way アクティブスピーカー

スピーカーユニット

HF

IG1 TR/IG2 TR : 1 インチ ホーン型 ×1
(1.4 インチ ボイスコイル採用)
IG3 TR/IG4 TR : 1.4 インチ ホーン型 ×1
(3 インチ ボイス コイル採用)

LF

IG1 TR : 6.5 インチ ×2
(1.5 インチ ボイスコイル採用)
IG2 TR : 8 インチ ×2
(2 インチ ボイスコイル採用)
IG3 TR : 10 インチ ×2
(2.5 インチ ボイスコイル採用)
IG4 TR : 6.5 インチ ×4
(1.5 インチ ボイスコイル採用)

指向性 [垂直方向非対称]

IG1 TR/IG2 TR : 100° × 80° (+15° / -65°)
IG3 TR/IG4 TR : 100° × 90° (+20° / -70°)

アンプ部

形式 : Digipro G3 / クラス D
冷却システム : 自然対流式
RMS 出力
IG1 TR/IG2 TR : 400 W
IG3 TR/IG4 TR : 900 W
実用最大出力
IG1 TR/IG2 TR : 800 W
IG3 TR/IG4 TR : 1,800 W

最大 SLP

IG1 TR/IG2 TR : 128 dB
IG3 TR/IG4 TR : 132 dB

DSP 部

コントローラー : DSP 56 bit
AD/DA 処理 : 24 bit/48 kHz
フィルター処理 : FIR リニアフェーズフィルター
プリセット : 初期設定値 ×6
 : ユーザー設定値 ×1
リミッター : デュアルアクティブピーク、RMS、
 : サーマル

周波数特性

	[-10 dB] 時	[-6 dB] 時
IG1 TR	67 - 20,000 Hz	72 - 19,600 Hz
IG2 TR	60 - 20,000 Hz	65 - 19,600 Hz
IG3 TR	51 - 20,000 Hz	55 - 18,900 Hz
IG4 TR	67 - 20,000 Hz	72 - 18,700 Hz

クロスオーバー周波数

IG1 TR : 1,750 Hz 24 dB/oct
IG2 TR : 1,750 Hz 24 dB/oct
IG3 TR : 960 Hz 24 dB/oct
IG4 TR : 1,000 Hz 24 dB/oct

外部入力

XLR/TRS 端子 (バランス)
コンボジャック入力 : ×1
USB 端子 : ×1 (mini-B タイプ)
RJ45 端子 (RDNet) : ×1

外部出力

XLR 端子 (バランス) : ×1
RJ45 端子 (RDNet) : ×1
電源 Link 端子
Neutrik 社製 NAC3PX 端子 : ×1*

* 最大供給電流

IG1 TR/IG2 TR (100 - 120 V 時) : max 14 A/1600 W
IG3 TR/IG4 TR (100 - 120 V 時) : max 10 A/1200 W

一般

電源

電圧 : AC 100~240 V (自動切替式)、50/60Hz
電源端子 : Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子

注意

日本国内においては、AC 100 V のみ動作保証となります。
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

消費電流

IG1 TR/IG2 TR (100 - 120 V 時) : 2.12 A (最大時)
IG3 TR/IG4 TR (100 - 120 V 時) : 4.7 A (最大時)

外形寸法

幅 × 高さ × 奥行き (突起部を含まず)

IG1 TR : 195 × 536 × 271 mm
IG2 TR : 228 × 646 × 315 mm
IG3 TR : 280 × 806 × 393 mm
IG4 TR : 195 × 956 × 271 mm

質量

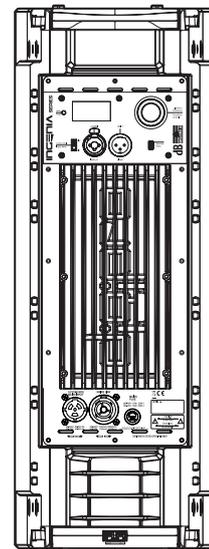
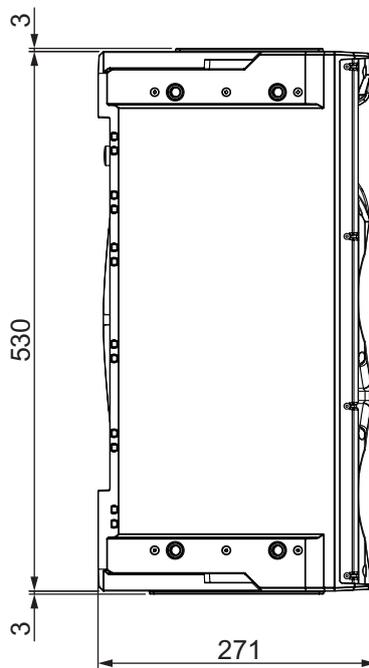
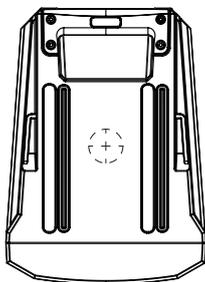
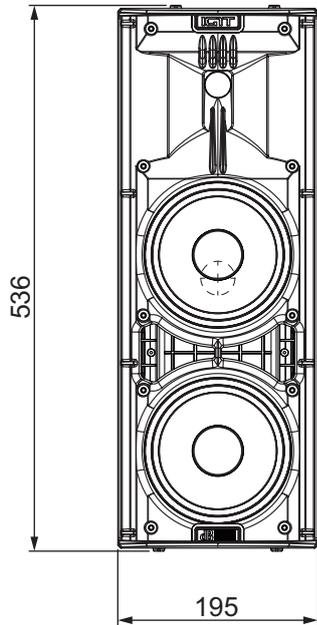
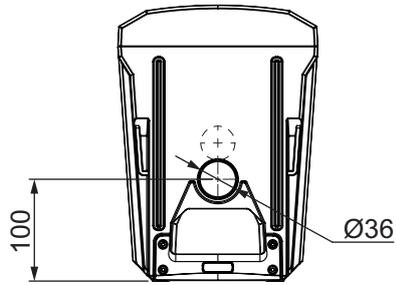
IG1 TR : 10.8 kg
IG2 TR : 12.8 kg
IG3 TR : 20.8 kg
IG4 TR : 18.2 kg

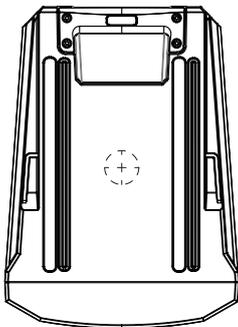
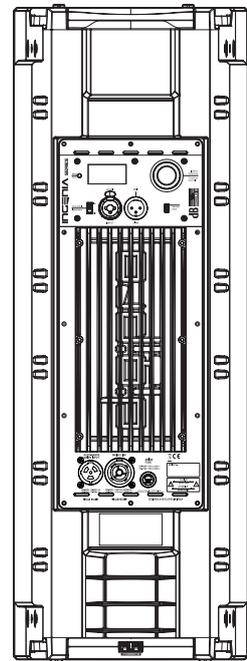
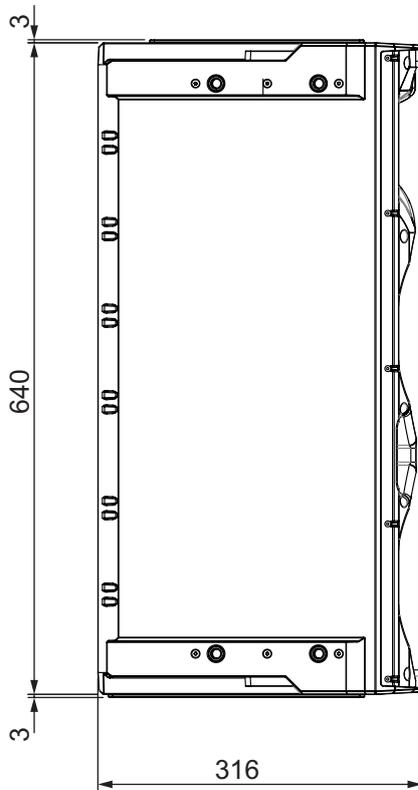
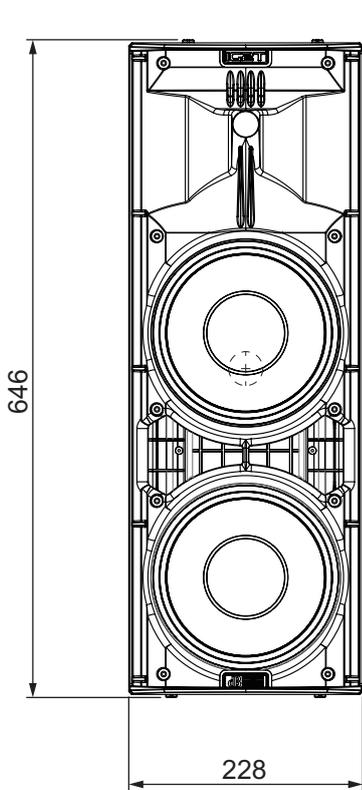
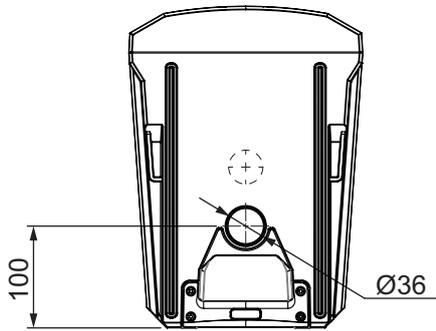
動作温度

-5 ~ +50°C

エンクロージャー

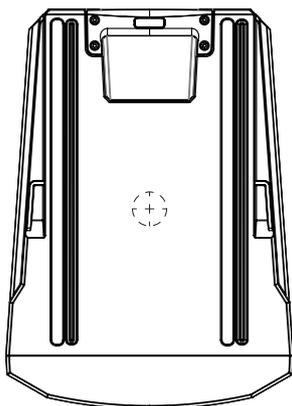
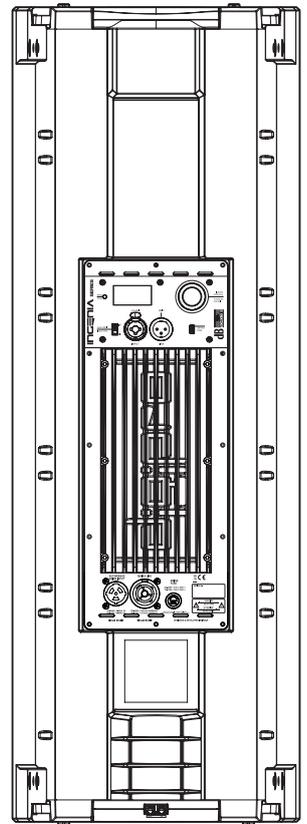
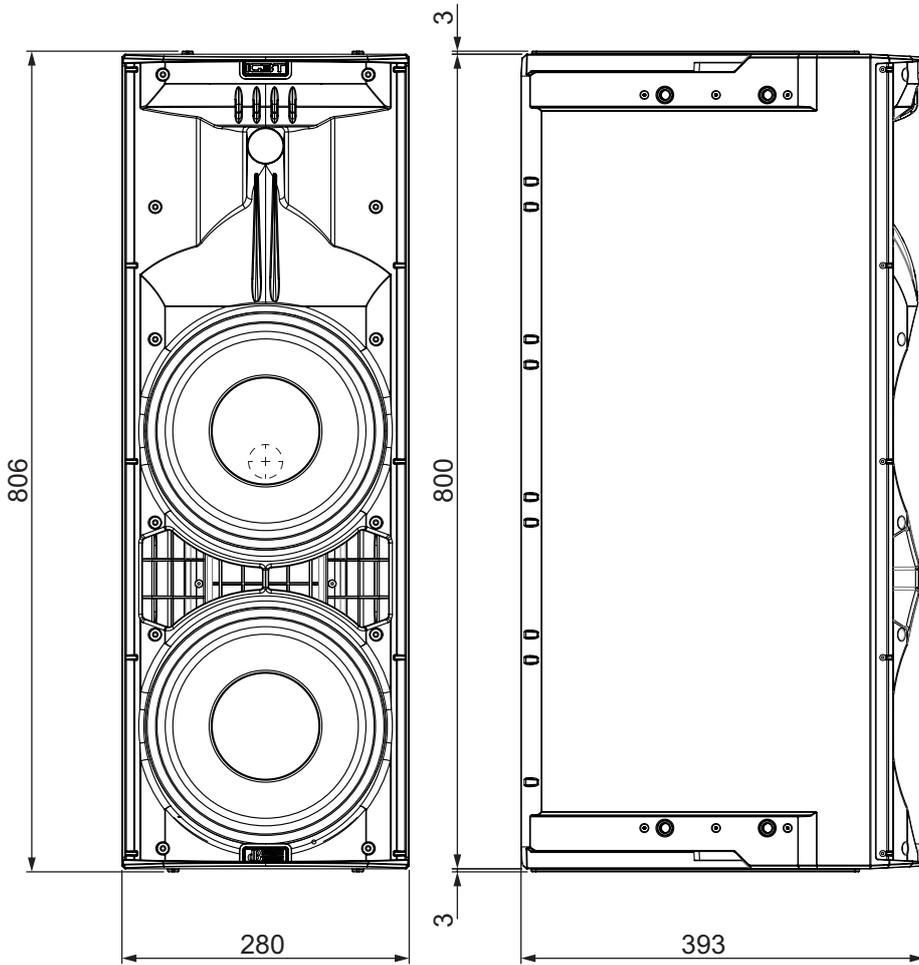
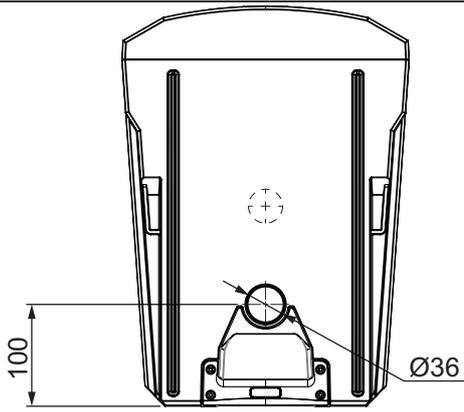
筐体素材 : 強化ポロプロピレン





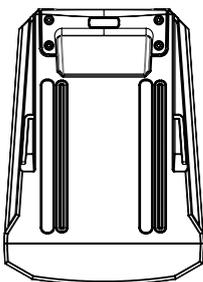
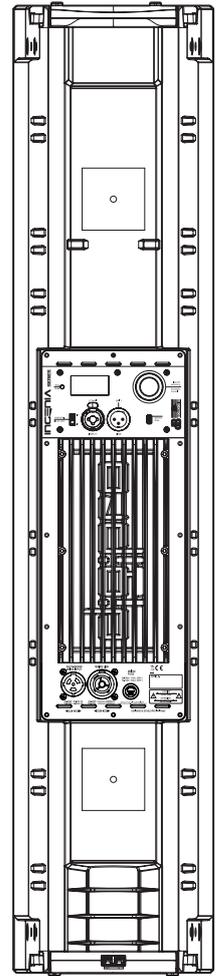
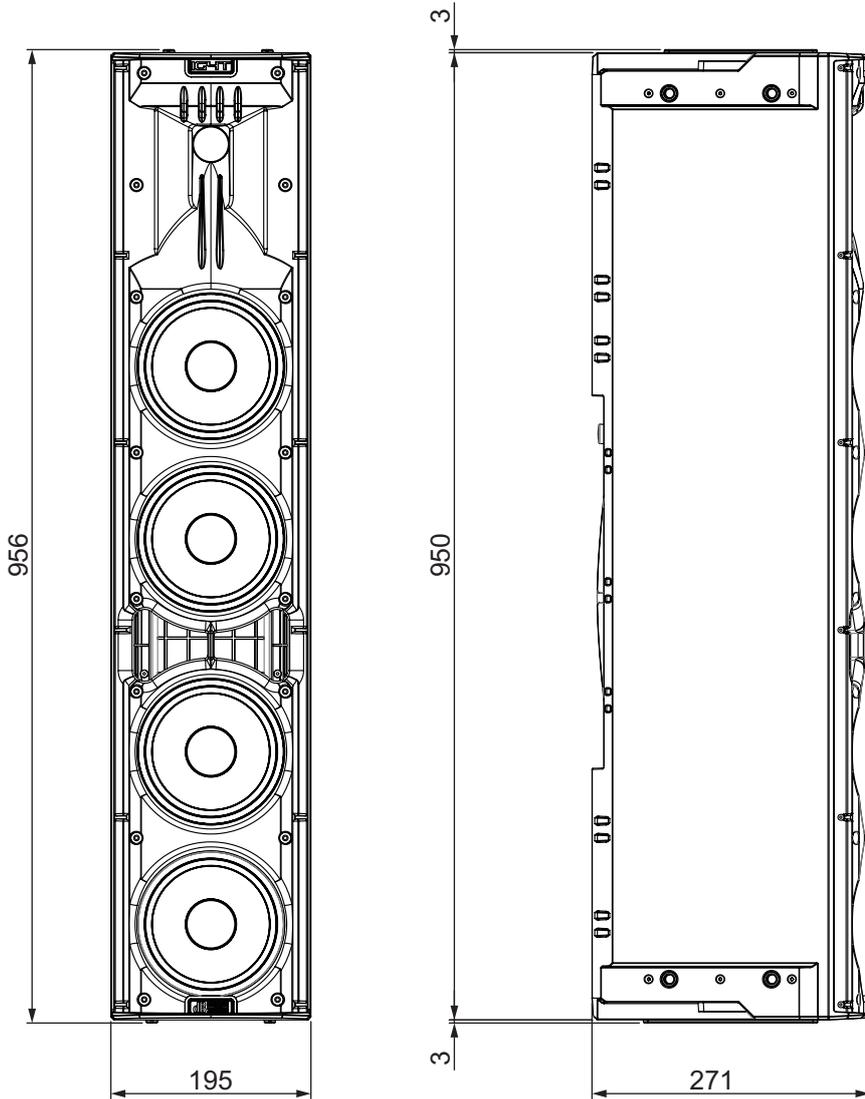
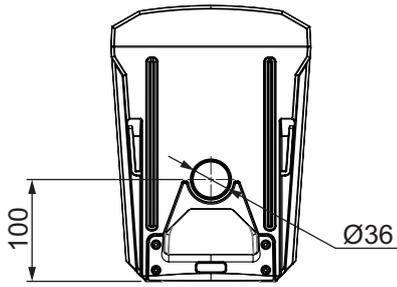
寸法図 (IG3TR)

IG3TR



寸法図 (IG4TR)

IG4TR





無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
- ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
- 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4) 接続しているほかの機器に起因する故障および損傷
 - (5) 業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - (6) メンテナンス

(7) 本書の提示がない場合

(8) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

- 本書は日本国内においてのみ有効です。
These warranty provisions in Japanese are valid only in Japan.
- 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

* この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

- 電話 **042-356-9137** 携帯電話・PHS・IP 電話から
- ナビダイヤル  **0570-000-809** 一般電話から
- FAX **042-356-9185**

受付時間は、10:00~12:00 / 13:00~17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障 / 修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

- 電話 **04-2901-1033** 携帯電話・PHS・IP 電話から
- ナビダイヤル  **0570-000-501** 一般電話から
- FAX **04-2901-1036**

受付時間は、9:30~12:00 / 13:00~17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

0824.MA-3941A

Printed in Japan

保証書

品名	dBTechnologies		
および 形番	IG1TR/IG2TR/IG3TR/IG4TR		
機番			
保証期間	本体	1年	
お買い上げ日	____年____月____日		
お客様	お名前		
	ご住所		

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から左記の期間中に故障が発生した場合は、本書を添付の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店	見本		

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただきます。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：0570-000-501(ナビダイヤル) / 04-2901-1033

